

U.S.-Japan Hospitality Management Summit 日米ホスピタリティマネジメントサミット

2019年10月28日

於：関西外国語大学 ICCホール

主催：駐大阪・神戸米国総領事館・在日米国商工会議所

後援：文部科学省・経済産業省・観光庁



Opening Remarks 開会のご挨拶

United States of America Consul
General Karen Kelley

米国総領事 かれん・ケリー

The logo for ACCI (Association of Chambers of Commerce in Japan) is displayed in white text on a red square background.

Congratulatory Speech 来賓祝辞

Mr. Kozo Yamamoto

Diet Member & Former Minister of
State for Regional Revitalization

衆議院議員 元地方創生担当大臣
山本幸三様



Congratulatory Speech 来賓祝辞

Ms. Eiko Tanimoto, Chairperson of
the Board, Kansai Gaidai University

関西外国語大学 理事長
谷本 榮子様



Keynote Speech

基調講演



Mr. Tsukasa Nakaoka, Vice Commissioner,
Agency for Cultural Affairs

文化庁 次長 中岡 司様

Joined the Ministry of Education, Science, Sports and Culture (MONBUSHO) in 1983. Served as Director, University Promotion Division Higher Education Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology(MEXT), in 2009 served as Director, Policy Division Science and Technology Policy Bureau, MEXT, in 2013 as Deputy Director-General, Higher Education Bureau, MEXT. He was assigned to serve as Deputy Commissioner for Cultural Affairs, Agency for Cultural Affairs in 2016. **1983年文部省入省後、**

2000年北九州市企画・学術振興局長、2005年高等教育局大学振興課長、2009年、科学技術・学術政策局政策課長、2013年大臣官房審議官（高等教育局担当）などを経て、2016年1月より現職。

ACCU

これからの行政における **文化と観光**の有機的な連携について

令和元年 10 月 28 日
文化庁次長 中岡 司



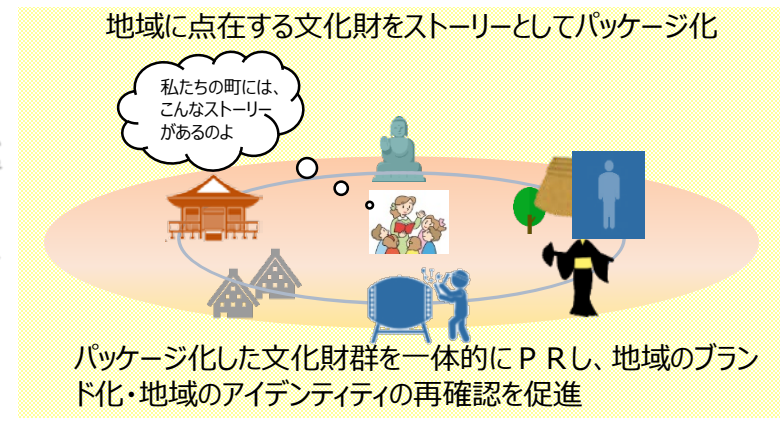
文化財の観光資源としての開花

- 従来の「保存を優先とする支援」から「**地域の文化財を一体的に活用する取組への支援**」に転換（優先支援枠の設定など）。
- 「文化財活用・理解促進戦略プログラム2020」（仮称）を策定し、文化財単体ではなく**地域の文化財を一体とした面的整備**や**分かりやすい多言語解説**などの取組を実施し、日本遺産をはじめ、文化財を中核とする観光拠点を全国200 拠点程度整備。
 - ・観光コンテンツとしての質向上
 - ◇わかりやすい解説の充実・多言語化
 - ◇学芸員や文化財保護担当者等に対する文化財を活用した観光振興に関する講座の新設、質の高いHeritage Manager（※）の養成と配置
 - （※）良質な管理を行う文化財の持続的活用を行える人材
 - ◇美術館や博物館における参加・体験型プログラム等への支援、ニーズを踏まえた開館時間の延長
 - ◇文化プログラムをはじめとする文化芸術活動との連携 等
- 文化庁について、地方創生や文化財の活用など、文化行政上の新たな政策ニーズ等への対応を含め、**機能強化を図りつつ、数年の内に全面的に京都に移転**。
 - ・地域の文化資源を活用した観光振興・地方創生の拡充に向けた対応の強化

日本遺産(Japan Heritage)の概要

日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」に認定。ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化・観光振興を図ることを目的に、2020年までに100件程度の認定を目指す。ストーリーは、単一の市町村内で完結する「地域型」と複数の市町村にまたがって展開する「シリアル型」の2タイプに分類して認定。



日本遺産の申請・認定

申請者は地方公共団体で、年1回都道府県を通じて公募。「日本遺産審査委員会」での審査を踏まえ文化庁が認定。

年 度	H27	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
認定数	18件（府県） < 18件認定 >	37件（33府県） < 19件認定 >	54件（40道府県） < 17件認定 >	67件（43道府県） < 13件認定 >	83件（46道府県） < 16件認定 >

飛騨匠の技・こころ一木とともに、今に引き継ぐ1300年—
(岐阜県高山市／平成28年度認定)

<ストーリーの概要>

「飛騨工制度」は古代に木工技術者を都へ送ることで税に充てる全国唯一の制度で、飛騨の豊かな自然に育まれた「木を生かす」技術や感性と、実直な気質は古代から現代まで受け継がれ、高山の文化の基礎となっている。市内には中世の社寺建築群や近世・近代の大工一門の作品群、伝統工芸など、現在も様々なところで飛騨匠の技とこころに触れることができる。これは私たちが木と共に生きてきた1300年の高山の歴史を体感する物語である。

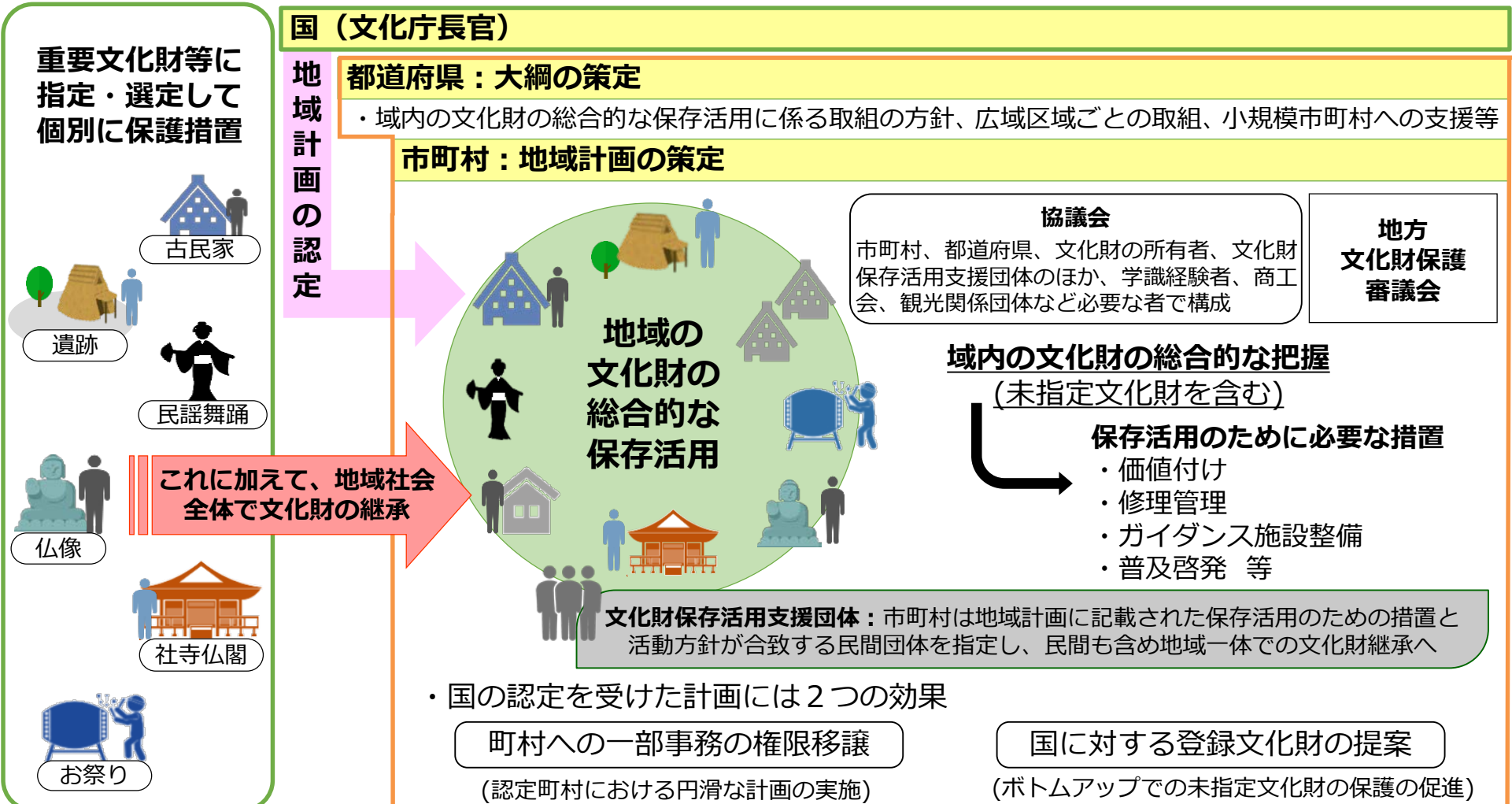


国分寺三重塔

改正文化財保護法による新たなスキーム(イメージ)

過疎化・少子高齢化などを背景に、文化財の滅失や散逸等の防止が緊急の課題であり、未指定を含めた文化財をまちづくりの核とし、社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが必要。このため、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図る。

①地域における文化財の総合的な保存・活用



②個々の文化財の確実な継承に向けた保存活用制度の見直し

○個別の文化財の保存活用計画の国の認定

国：文化庁長官

認定

所有者・管理団体：保存活用計画の作成

「旧〇〇家住宅」
保存活用計画

「〇〇図屏風」
保存活用計画

「〇〇城跡」
保存活用計画

等

【計画の認定を受けることによる効果】

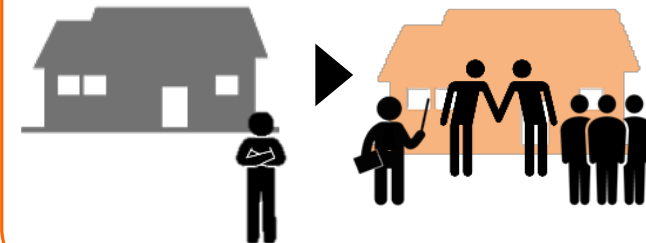
- ・ 国指定等文化財の現状変更等にはその都度国の許可等が必要であるが、認定保存活用計画に記載された行為は、許可を届出とするなど手続きを弾力化
- ・ 美術工芸品に係る相続税の納税猶予（計画の認定を受け美術館等に寄託・公開した場合の特例）

○所有者に代わり文化財の保存活用を担う主体の位置付け

「特別な事情があるとき」に選任できるとしている管理責任者について、必要があるときに選任できるよう要件拡充する

所有者単独で保存活用の取組

所有者の取組を積極的にサポート



③地方文化財行政の推進力強化

- ・ 地方における文化財保護の所管は教育委員会だが、文化行政全体としての一体性やまちづくり等に関する事務との関連性を考慮し、条例により、文化財保護の事務を首長が担当できるようにする
- ・ ただし、首長部局に移管する場合は、専門的・技術的判断の確保や開発行為との均衡等に対応するため、文化財保護法において任意設置となっている地方文化財保護審議会の設置を必須とする

①日本博を契機とした観光コンテンツの拡充 35億円(新規)

日本博の開催を契機として、これまでにない演出・手法等で文化財を活用したインバウンド向けの観光コンテンツを全国各地で創出し、訪日外国人の地方誘客・消費拡大を促進



③文化財多言語解説整備 10億円(5億円)

訪日外国人旅行者の地域での体験滞在の満足度を向上させるため、文化財に対して多言語で先進的・高次元(VR、AR技術、QRコードなど)な解説整備を加速。



(AR技術を使用した多言語解説)



(音声ガイドの多言語解説)

②Living History(生きた歴史体感プログラム) 35億円(新規)

文化財に新たな付加価値を付与し、より魅力的なものとするための取組(Living History)を支援するとともに、地域全体で魅力向上につながる一体的な整備などを実施。

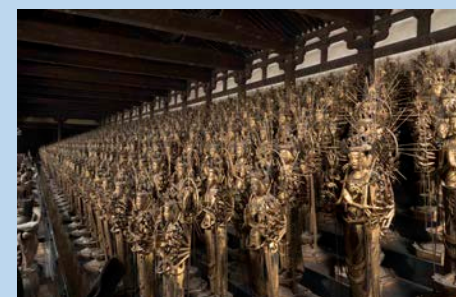


④日本文化の魅力発信 20億円(新規)

日本の歴史や芸術・伝統的な日本文化・文化財等を先端技術等(VR、AR等高精細画像やクローン文化財等の高精細レプリカ等)も駆使しながら、効果的な場所(空港・駅等)で国内外に発信



(成田空港に洛中洛外図屏風を高精細レプリカ等で再現)



(1030体の仏像群をVRにより再現)

【夜間開館・多言語対応】

○各館の開館は、概ね09:30～17:00。

2016年8月まで、金曜の開館のみ20:00までに延長。

2016年9月から、金曜に加え、土曜の開館も20:00までに延長（九州国立博物館は2017年から）。

2017年4月から、東京国立博物館は、金曜・土曜の開館を21:00までに更に延長。

他館も、夏季や個別ケースに応じて、金曜・土曜の開館を21:00までに延長。

○各館の館内の案内表示や展示解説、音声ガイド4ヶ国語〔日・英・中・韓〕対応済

【さらなる取組の例】

夜間の貸切鑑賞

（京都国立博物館）

2018年9月、「京の刀展」で夜間貸切を実施し、1,510人参加。



（東京国立博物館）

2018年10月、「快慶・定慶展」で夜間貸切ツアーを実施し、175人参加。



早朝開館の弾力化

（東京国立博物館）

2019年2月、「顔真卿展」で外国人が想定以上に来館。来館者の状況に応じて9:00からの開館に繰り上げ。



正月の開館

（各館とも）

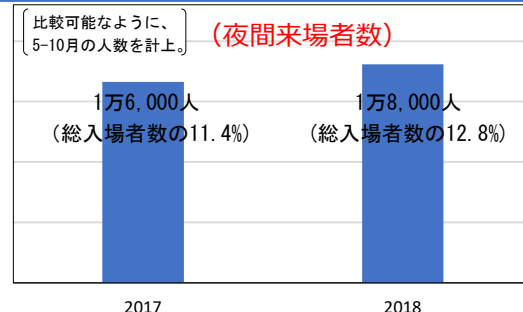
1月2日から開館（九州国立博物館は元旦から）。正月らしい展示やイベントで集客し、東京国立博物館は、2019年初日の来館が10,038人で1万人突破（2017年7,800人、2018年8,900人）。



地域との連携

（九州国立博物館）

2017年から、太宰府天満宮や参道商店街と連携し夜間開館をキャンペーン。夜間に2万人近く来館。

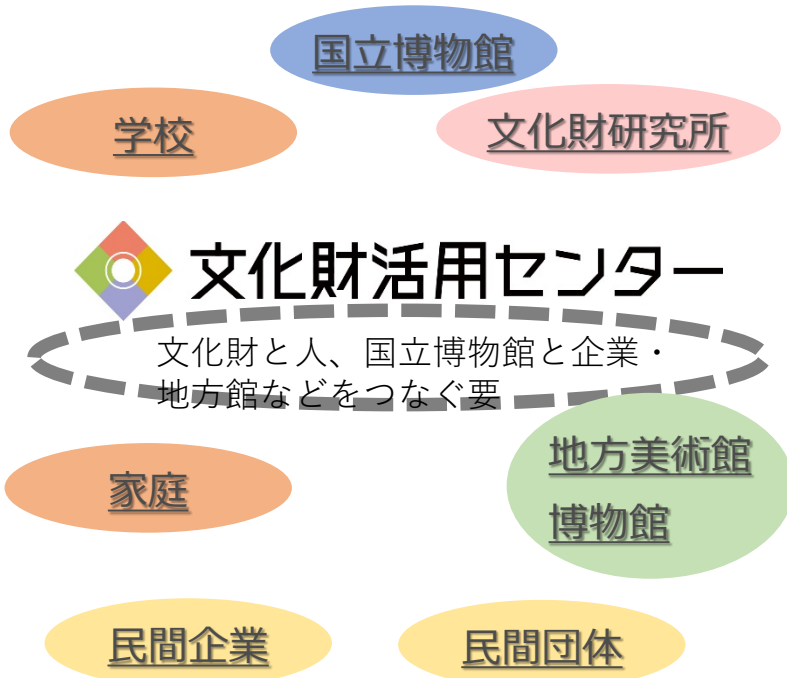


（都内の複数の国立美術館）

2018年7～9月、美術館が、東京メトロと連携して夜間開館をキャンペーン。国立3館（東京国立近代美術館、国立西洋美術館、国立新美術館）の期間中の夜間来館が前年の38,600人から46,400人に増加。



文化財活用センター「ぶんかつ」の取組



1. 文化財活用の未来を創る

複製やデジタル技術による活用／最先端の文化財活用技術を用いた体験型展示

レプリカ・映像を多用した展示

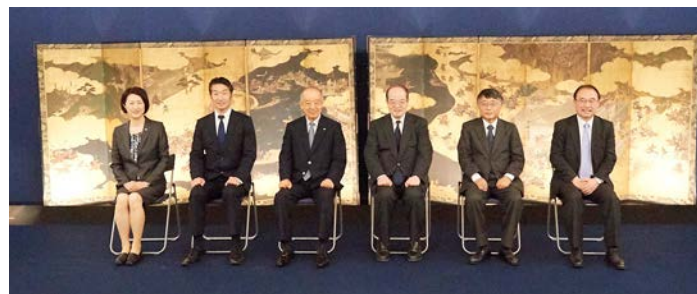
ハンズオンを利用した展示

高精細レプリカなどを学校へアウトリーチするプログラム



2. 文化財と企業をつなぐオープンイノベーション構想

企業・団体との共同事業等の拡充／企業との連携



文化財の高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト
文化財活用センター × キヤノン株式会社

ハンズオン用火焰土器
文化財活用センター ×
大塚オーミ陶業株式会社



3. 文化財で地方創生貢献

地方館への収蔵品貸与促進事業の拡充／文化財展示・保存環境相談窓口／文化財情報発信の基盤強化



高岡市美術館「明治金工の威風」展で里帰り



三内丸山遺跡センター「あおり土偶」展で里帰り



保存担当者研修の様子

1 経緯

- 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」（主催：安倍総理、座長：津川雅彦氏）において、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討等を実施。
- 2020年の「日本博」については、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本の全国各地で実施することとされ、第6回の同懇談会（2018年6月22日開催）において、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示。

2 関連スケジュール

2015年：「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」発足

2016年：「日本仏像展」（於：イタリア）を開催

2018年：「ジャポニスム2018」（於：フランス）を開催

2019年：「Japan 2019」（於：米国）、
「響きあうアジア2019」（於：東南アジア）を開催

2020年：「日本博」（於：日本）を開催

（※ 同年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催）



提供：独立行政法人日本芸術文化振興会

1 総合テーマ

「日本人と自然」

2 基本コンセプト

「日本の美」は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を表現してきた。

日本は、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、人間が自然にたいして共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしている。

「日本博」では、総合テーマ「日本人と自然」の下に、「美術・文化財」「舞台芸術」「メディア芸術」「生活文化・文芸・音楽」「食文化・自然」「デザイン・ファッション」「共生社会・多文化共生」「被災地復興」などの各分野にわたり、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来を創生する。

この文化芸術の祭典が、人々の交流を促して感動を呼び起こし、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、平和の祈りへとつながることを希求する。

3 開催時期等

2020年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開

4 実施にあたってのポイント

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、
「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を全国で展開。

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じて体系的に展開。

文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、
民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクト



- オリパラ前、期間中、オリパラ後のインバウンド拡充
- 訪日外国人の「地方への誘客」の促進
- 国家ブランディングの確立

沖縄の伝統芸能・ユネスコ無形文化遺産「組踊」 ～300周年の誇りを世界に～(仮)

＜沖縄県内、国立劇場おきなわ、全国各地＞ 令和元年10月～令和2年3月予定

琉球王朝時代から様々な文化の影響を受けつつ独自の美学と感性で育まれ発展してきた組踊を始めとする沖縄の芸能文化を次世代に引き継ぎ、時代に即した新たな文化芸術を創造する企画です。また訪日外国人も楽しめるよう多言語対応で行う公演「Discover KUMIODORI」等を実施します。



※組踊公演イメージ



※組踊体験型のワークショップイメージ

瀬戸内国際芸術祭

平成31年4月26日（金）～5月26日（日）

令和元年7月19日（金）～8月25日（日）、9月28日（土）～11月4日（月）

地域資源を生かしたアートプロジェクトや「食」に関する取組を通じて、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内が地球上のすべての地域の「希望の海」となることを目指す。



草間彌生「赤かぼちゃ」2006年 直島・宮浦港緑地 写真／青地 大輔



ワン・ウェンチー(王文志)「小豆島の恋」Photo Keizo Kioku

MANGA都市TOKYO

ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮 2020

＜国立新美術館＞ 令和2年7月～9月予定

日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮の中から、破壊と再生が繰り返される「東京」という都市をテーマに約90コンテンツを取り上げ展覧。『ゴジラ』『AKIRA』『百日紅』などの貴重な原画、関係資料、映像等を美しいメディア芸術でたどる。日・英・仏・中・韓5か国語による展示や、車いす等の思いやりレーンの設置により、誰もが楽しめる企画です。

Illustration by: Yoh Yoshinari
(c) Crypton Future Media, INC. www.piapro.net / (c) khara /
(c) Naoko Takeuchi/PNP, Toei Animation / (c) Osamu Akimoto, Atelier Beedama/SHUEISHA / (c) SOTSU, SUNRISE / (c) TOHO CO., LTD.



文楽「仮名手本忠臣蔵」 －日本人の心と四季－三公演連続上演

国立文楽劇場

平成31年4月6日（土）～29日（月）（18日：休演）

令和元年7月20日（土）～8月5日（月）

令和元年11月2日（土）～24日（日）（13日：休演）

人形浄瑠璃文楽の『仮名手本忠臣蔵』は、日本人の「忠義」という美しい心を描き、日本の四季の移ろいの中で物語が進行する時代物の三大名作の一つで、発端（春）から本懐（冬）までが日本の四季の移ろいの中で進行する。



写真提供 独立行政法人日本芸術文化振興会

Roundtable 1 ラウンドテーブル1

Theme: 訪日観光客の急速な増加に対応するホスピタリティ
業界が面する課題と日本政府の今後の展望

モデレーター: セントラルフロリダ大学准教授 原 忠之氏

パネリスト:

- I R 推進本部事務局 事務局長 中川 真氏
- 文部科学省高等教育局専門教育課長 黄地 吉隆氏
- 公益財団法人大阪観光局 理事長 溝 畑 宏氏
- 一般財団法人関西観光本部 専務理事 東井 芳隆氏

ACCU

Moderator モデレーター



Dr. Tadayuki Hara, Associate Professor; Senior Research Fellow, Dick Pope Institute for Tourism Studies

セントラルフロリダ大学 准教授
原 忠之氏

ACCU

USA-Japan Hospitality Management Summits 10/28 & 10/30

Roundtable I (in Japanese)

10/28 Osaka, 10/30 Tokyo 09:40 ~ 10:40

Moderator's Overview in 10 minutes at the beginning

Moderator: Tadayuki (Tad) Hara, PhD 原 忠之

Associate Professor, Senior Research Fellow at Dick Pope Sr. Institute of Tourism Studies

Rosen College of Hospitality Management, University of Central Florida,

米国フロリダ州・セントラルフロリダ大学ローゼン・ホスピタリティ経営学部テニユア付准教授

(兼任)観光庁観光統計委員、文化庁文化政策シニアアドバイザー、内閣府地方創生カレッジ委員、国連UNESCO統計局文化サテライト勘定技術諮問委員、国連世界観光機構UNWTOコンサルタント、国連ICAO航空サテライト勘定委員、国連統計局コンサルタント、一橋大学特任教授、京都大学客員教授、宇都宮共和大学客員教授、文化観光リサーチ(株)会長

E-mail: tadayuki.hara@ucf.edu Facebook: Tadayuki Hara (in Orlando, Florida)



1-1. 外的経営環境

新たな目標値について

安倍内閣 3 年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、大胆な「改革」を断行。

・ 訪日外国人旅行者数は、2 倍増の約2000万人に

(2012年) (2015年)

836万人 ⇒ 1974万人

・ 訪日外国人旅行消費額は、3 倍増の約 3.5 兆円に

1 兆846億円 ⇒ 3 兆4771億円

筆者注：
(2018年)
3178万人
4兆5000億

新たな目標への挑戦！

訪日外国人旅行者数

2020年： 4,000万人

(2015年の約2倍)

2030年： 6,000万人

(2015年の約3倍)

訪日外国人旅行消費額

2020年： 8兆円

(2015年の2倍超)

2030年： 15兆円

(2015年の4倍超)

Annual Inbound Visitors: 8Million in 2012, 19M 2015, **31M in 2018**,

Goals: 40M in 2020, 60M in 2030

Annual Expenditures: \$18Billion in 2012, \$34B in 2015, **\$45B in 2018**,

Goals: \$80B in 2020, \$150B in 2030

日本人国内旅行消費額

2020年： 21兆円

(最近5年間の平均から約5%増)

2030年： 22兆円 3

(最近5年間の平均から約10%増)

Domestic Expenditures hovers **\$210B** and **\$220B** by 2020-2030

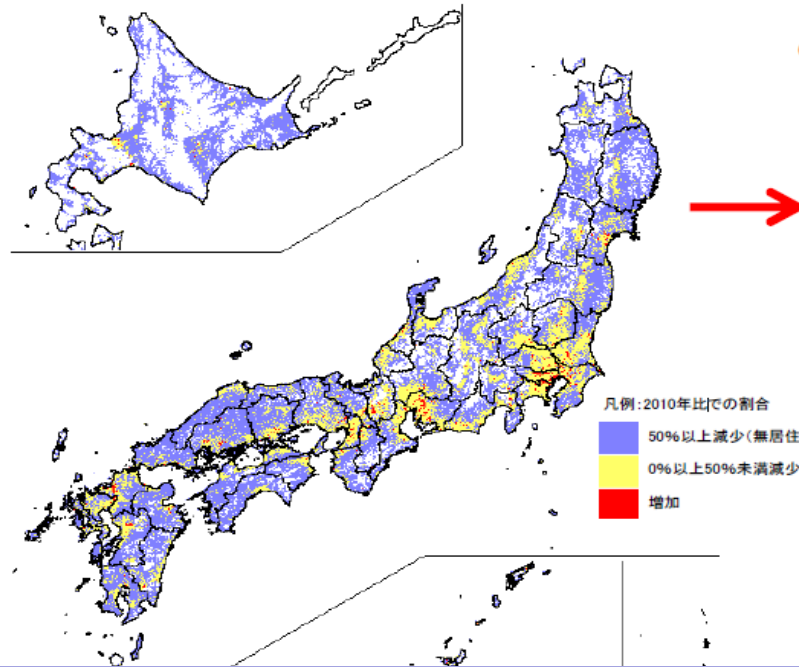
観光庁ウェブページを参照

1-2. 外的経営環境

国土全体での人口の低密度化と地域的偏在が同時に進行(2010年→2050年) 国土交通省

- 全国を《1km²毎の地点》でみると、人口が半分以下になる地点が現在の居住地域の6割以上を占める(※現在の居住地域は国土の約5割)。
- 人口が増加する地点の割合は約2%であり、主に大都市圏に分布している。
- 《市区町村の人口規模別》にみると、人口規模が小さくなるにつれて人口減少率が高くなる傾向が見られる。特に、現在人口1万人未満の市区町村ではおよそ半分に減少する。

【2010年を100とした場合の2050年の人口増減状況】



[The map of Japan with 3 colors]

Blue area means severe population decrease by more than 50% from 2010 to 2050.

Yellow areas are expected to see population decrease of less than 50% in 40 years.

Red areas are expected to have population increase in 40 years.

Source: MLIT PDF: <http://www.mlit.go.jp/common/001033672.pdf>

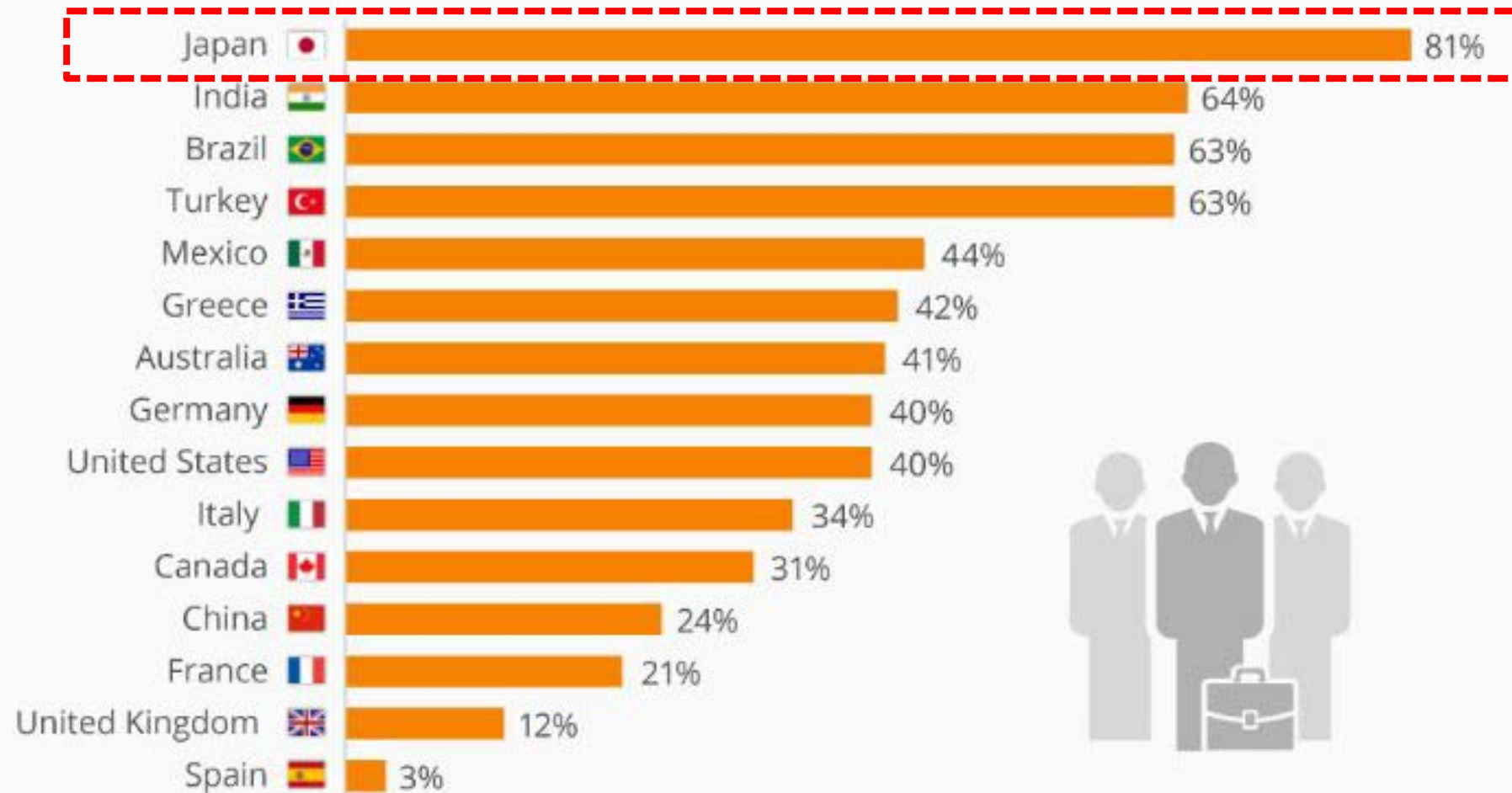


深刻な人口減の地域＝地方創生を進めたい地域。人口減・税収減で疲弊する地域経済をインバウンド客消費の経済効果で食い止める必要急務。実現の資源は？⇒文化歴史。

1-3. 外的經營環境

The Countries Facing The Greatest Skill Shortages

Skills shortage as a % of firms with 10 or more employees in selected countries*





政調:観光立国調査会

日時 平成26年4月1日(火)12:00～
場所 自由民主党本部7階 704号室

議 題

「観光立国実現に向けた観光教育の推進」について

2. 観光人材育成の高等教育相対的位置確認
数年前にプレゼンした資料を流用: Are we Better or Worse?

講師: 原 忠之

ロサンゼルス・ホスピタリティ経営学部、財務経営担当副
学部長／国連世界観光機構、観光統計局コンサルタント

2-1. 米国及び世界の当分野学術研究潮流と大変革

- 研究成果の電子データベース化制度急速進展中
 - 英語の世界共通研究言語化が急加速
 - 今まで不可能だったランク付けが可能 & 可視化
 - 学分野国別研究論文貢献数ランキング
 - 世界の学者の生産性(productivity)と影響度(impact factor) 相対比較も可能に
 - 英語論文で無いと引用されない＝影響度低い
 - 査読付学術誌のランクも可視化
 - 国内での学術分野別国際競争力も一目瞭然に
 - 理系ではこの分野世界何位、文系各分野も世界比較で何位かが可視化(如何にリンク貼付け:無料で世界中で見れる)

<http://www.scimagojr.com/index.php>

Journal Search

2-2 Rankings

Country Search

Compare

Map Generator

Help

About Us

? How to cite this website?

Follow us:



SJR is developed by:

SCIMAGO
L A B

Powered by

Scopus

Subject Area:

Subject Category:

Region:

Order By:

Year:

Display countries with at least:

Complete list.

Download data in MS Excel format

	Country	Documents	Citable documents	Citations	Self-Citations	Citations per Document	H index
1	United States	7,063,329	6,672,307	129,540,193	62,480,425	20,45	1,380
2	China	2,680,395	2,655,272	11,253,119	6,127,507	6,17	385
3	United Kingdom	1,918,650	1,763,766	31,393,290	7,513,112	18,29	851
4	Germany	1,782,920	1,704,566	25,848,738	6,852,785	16,16	740
5	Japan	1,776,473	1,734,289	20,347,377	6,073,934	12,11	635
6	France	1,283,370	1,229,376	17,870,597	4,151,730	15,60	681
7	Canada	993,461	946,493	15,696,168	3,050,504	18,50	658
8	Italy	959,688	909,701	12,719,572	2,976,533	15,26	588
9	Spain	759,811	715,452	8,688,942	2,212,008	13,89	476
10	India	750,777	716,232	4,528,302	1,585,248	7,99	301
11	Australia	683,585	643,028	9,338,061	2,016,394	16,73	514
12	Russian Federation	586,646	579,814	3,132,050	938,471	5,52	325
13	South Korea	578,625	566,953	4,640,390	1,067,252	10,55	333
14	Netherlands	547,634	519,258	10,050,413	1,701,502	21,25	576
15	Brazil	461,118	446,892	3,362,480	1,151,280	10,09	305
16	Taiwan	398,720	389,411	3,259,864	790,103	10,41	267
17	Switzerland	395,703	377,016	7,714,443	1,077,442	22,69	569
18	Sweden	375,891	361,569	6,810,427	1,104,677	20,11	511
19	Poland	346,611	339,712	2,441,439	652,956	8,25	302
20	Turkey	306,926	291,814	1,935,431	519,675	8,24	210
21	Belgium	299,077	285,735	4,696,153	701,283	18,16	454
22	Israel	224,674	215,590	3,663,004	530,340	17,78	414
23	Austria	214,844	204,243	3,047,983	433,709	16,67	378
24	Denmark	208,227	198,923	3,876,514	573,278	21,56	427

Journal Search

Country Rank

2-3

Country Search

Compare

Map Generator

Help

About Us

Subject Area:

All

Subject Category:

Drug Discovery

Region:

All

Year: 1996-2012

Order By:

Documents

Display countries with at least:

0

Documents

Refresh

Subject Category: Drug Discovery.

Period: 1996-2012.

新薬開発分野学術研究国別ランキング



Download data in MS Excel format



How to cite this website?

Follow us:



Twitter

SJR is developed by:

SCIMAGO
L A B

Powered by

Scopus

再利用

	Country	Documents	Citable documents	Citations	Self-Citations	Citations per Document	H index
1	United States	27,842	26,651	449,746	208,146	18,38	184
2	Japan	11,006	10,885	119,568	38,827	11,33	78
3	China	8,927	8,618	46,571	22,059	11,89	54
4	India	7,764	7,601	41,828	19,534	13,06	59
5	United Kingdom	6,886	6,416	117,839	26,075	19,61	118
6	Germany	5,993	5,817	80,700	22,600	15,04	93
7	Italy	4,950	4,804	62,227	18,612	13,59	76
8	South Korea	4,940	4,885	38,306	12,188	9,10	52
9	France	4,057	3,962	53,731	12,422	14,30	76
10	Canada	2,721	2,645	37,670	7,362	17,27	71
11	Spain	2,235	2,181	26,941	7,976	14,03	57
12	Switzerland	1,815	1,741	36,226	5,891	22,83	77
13	Iran	1,615	1,487	7,822	3,488	10,69	37
14	Australia	1,391	1,347	19,675	3,741	18,39	52
15	Taiwan	1,210	1,196	12,466	3,384	13,23	41
16	Sweden	1,207	1,174	18,951	3,641	17,29	58
17	Brazil	1,169	1,138	10,800	4,339	13,76	40
18	Belgium	1,161	1,115	16,913	2,846	17,16	52
19	Turkey	1,159	1,044	11,482	3,799	12,55	41
20	Netherlands	1,086	1,054	16,544	3,009	18,37	52
21	Poland	1,027	1,007	10,595	3,193	11,65	41
22	Egypt	910	906	7,923	2,294	10,97	37
23	Denmark	726	707	9,916	1,860	15,50	43

観光・レジャー・ホスピタリティ経営分野学術研究国別ランキング(2012年)

? How to cite this website?

Follow us:



SJR is developed by:

SCIMAGO
LAB

Powered by
Scopus

	Country	Documents	Citable documents	Citations	Self-Citations	Citations per Document	H index
1	United States	3,810	3,642	26,026	10,813	10,41	57
2	United Kingdom	2,109	2,033	15,821	4,831	10,35	45
3	Australia	1,430	1,384	9,197	2,459	11,64	40
4	Canada	796	760	6,557	1,130	11,47	37
5	New Zealand	423	403	3,215	502	12,42	27
6	Hong Kong	416	401	1,800	372	7,70	19
7	Spain	387	377	2,825	709	13,12	26
8	China	330	327	1,453	425	12,58	15
9	Taiwan	274	270	973	300	17,58	12
10	Netherlands	268	261	2,189	378	12,99	26
11	South Korea	243	240	1,245	147	11,42	17
12	Sweden	226	218	1,251	224	10,61	18
13	France	223	202	1,117	186	7,44	16
14	Italy	193	189	684	152	7,10	12
15	Germany	192	189	882	201	6,53	15
16	Greece	176	174	1,018	179	17,00	16
17	Turkey	171	167	994	240	11,82	15
18	Norway	165	160	802	133	10,37	16
19	Israel	143	141	1,216	235	8,89	18
20	Finland	133	129	594	161	7,41	12
21	Portugal	121	114	605	113	10,26	13
22	Singapore	118	116	816	113	8,62	15
23	South Africa	105	99	485	165	7,85	12
24	Denmark	104	103	701	67	13,36	15
25	Switzerland	101	97	467	49	5,80	11
26	Japan	96	94	537	65	6,94	11
27	Austria	95	94	571	96	7,37	14
28	Malaysia	93	91	286	51	8,10	10
29	India	89	88	508	97	6,30	12

2-5

Country	↓ Documents	Citable documents	Citations	Self-Citations	Citations per Document	H Index
1 United States	13604	12239	209444	72344	15.40	150
2 United Kingdom	6482	6176	117848	30951	18.18	120
3 Australia	5164	4952	84048	21531	16.28	109
4 Canada	2506	2383	43223	6695	17.25	90
5 China	2128	2086	21028	6608	9.88	56
6 Spain	1748	1699	26008	6010	14.98	71
7 Hong Kong	1697	1636	33590	4605	19.79	83
8 New Zealand	1413	1330	27088	4006	19.17	79
9 Taiwan	1336	1298	21007	4250	15.72	69
10 South Korea	1188	1169	21573	3024	18.16	72
11 Netherlands	835	807	13699	1649	16.41	58
12 Italy	817	782	9797	2256	11.99	46
13 Turkey	772	754	13530	1868	17.53	57
14 Germany	747	728	8574	1418	11.48	42
15 Sweden	680	654	10506	1735	15.45	50
16 Norway	660	646	8729	1344	13.23	45
17 South Africa	657	637	5422	1404	8.25	37
18 France	646	611	7119	721	11.02	37
19 Portugal	609	574	5182	968	8.51	35
20 Malaysia	505	490	4033	989	7.99	29
21 Israel	496	484	9679	1267	19.51	52
22 India	490	474	3579	892	7.30	31
23 Greece	487	476	6421	972	13.18	37
24 Finland	444	429	6742	1370	15.18	40
25 Austria	434	425	5901	658	13.60	40
26 Denmark	409	393	6555	687	16.03	41
27 Switzerland	406	393	4835	404	11.91	35
28 Singapore	336	325	5043	477	15.01	37
29 Japan	318	309	3131	333	9.85	26
30 Belgium	261	253	3441	396	13.18	29

観光・レジャー・ホスピタリティ経営分野
学術研究国別ランキング(2017年)
「2012年比較で日本は5年間で地位挽回したのか、更に下落したのか？」

日本が全学術分野英文査読論文数で総合
国家ランキング5位は変動なし
「観光・レジャー・ホスピタリティ経営
分野」は2012年累計26位。2017年は？

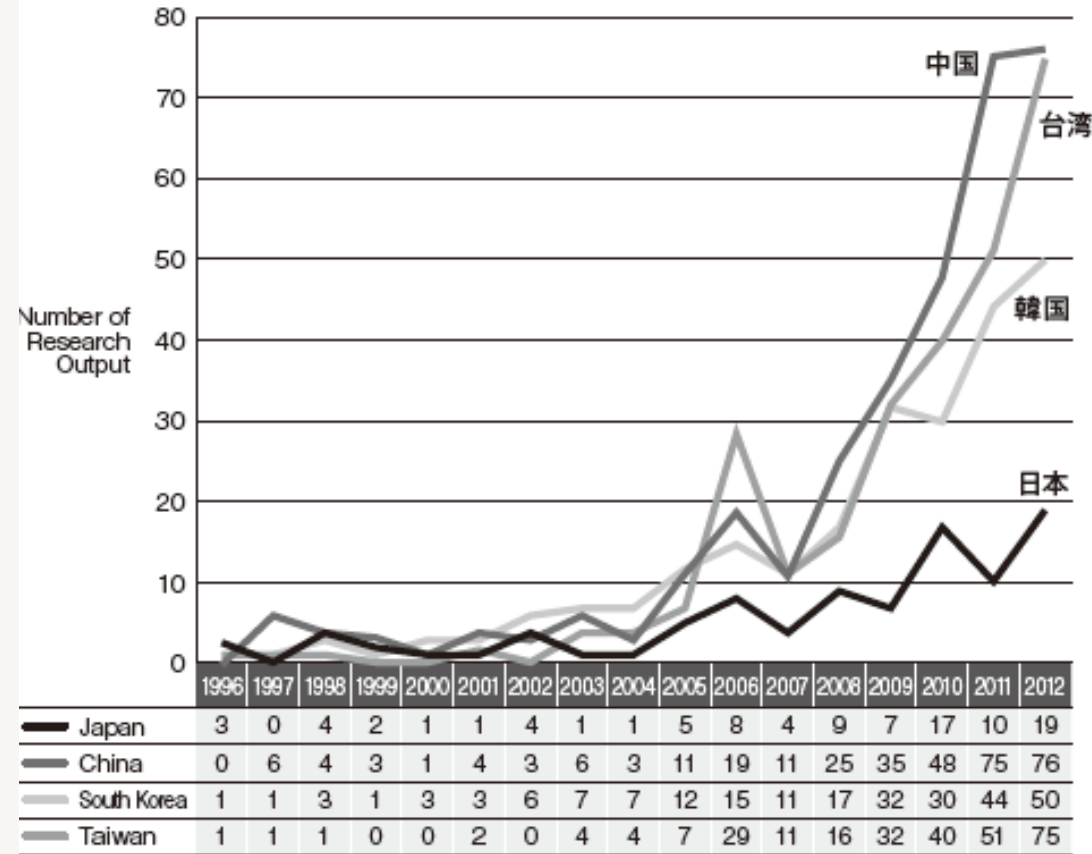
Country	↓ Documents	Citable documents	Citations	Self-Citations	Citations per Document	H Index
1 China	2128	2086	21028	6608	9.88	56
2 Hong Kong	1697	1636	33590	4605	19.79	83
3 Taiwan	1336	1298	21007	4250	15.72	69
4 South Korea	1188	1169	21573	3024	18.16	72
5 Malaysia	505	490	4033	989	7.99	29
6 India	490	474	3579	892	7.30	31
7 Singapore	336	325	5043	477	15.01	37
8 Japan	318	309	3131	333	9.85	26
9 Thailand	253	246	2300	197	9.09	24
10 Macao	159	152	1147	116	7.21	19
11 Indonesia	80	77	1053	100	13.16	13

アジア内競争でも惨敗。挽回気配なし。

2-6:東アジア諸国 観光研究と比較

Chart1: Competition in East Asia in Tourism,
Leisure & Hospitality Management Research Output

図1 東アジアでの「観光・レジャー・ホスピタリティ経営分野」
年間研究論文数推移
(1996年から2012年:日本・中国・韓国・台湾の比較)



出典: <http://www.scimagojr.com>

アジア内競争も惨敗。挽回気配なし

Display countries with at least 0 Documents

Country	↓ Documents	Citable documents	Citations
1 China	318	310	246
2 Hong Kong	174	168	70
3 South Korea	164	163	72
4 Taiwan	144	127	48
5 Malaysia	93	91	61
6 India	64	62	17
7 Macao	45	40	12
8 Japan	41	39	11
9 Thailand	35	35	10
10 Singapore	33	32	12

- アジア初の観光学科設置先行利益はほぼ崩壊、跡形もなし。
- 2007年頃からの中韓台湾観光系学者による世界での熾烈な「知識創造」研究競争に劣後
- 2017年単年データではアジア域内の香港、マレーシア、マカオ、インドにも後塵。

2-7:日本の「観光学」高等教育の課題

- 世界の潮流から乖離している点をも理解出来ない鎖国状態
 - － 観光庁は一貫して観光分野人材育成の世界的方向性を正しく提示しているが、学術会には変革の気配無し。
 - － 世界学術会での日本の存在感はほぼゼロ
 - ワールドカップ地区予選で敗退のレベル
 - 日本語で日本人と日本で話している限りは世界の大変革&日本観光学術界の後進性にも気付けない
 - － 「英文学術論文が投稿されない」＝「英文学術論文も読んでいない」＝ 世界の最先端の研究もカリキュラムも知らない(知りたくない?)が、世界から証拠を提出されている状況⇒観光・レジャー・ホスピタリティ経営学部学科のある大学世界トップランキングでトップ300位大学リストに日本はゼロ(link attached)

－ <http://www.shanghairanking.com/Shanghairanking-Subject-Rankings/hospitality-tourism-management.html>

2-8:日本の「観光学」変革の戦略論

- 産業界のニーズにも世界学術界の潮流にも合致しない語リ部観光モデルに固執し観光庁の提示した世界主流のホスピタリティ経営カリキュラム案を無視し続けると、
 - 学生の業界就職率20%割れ
 - 卒業生・保護者・高校の不満増大
 - 予備校での評判低下という負のスパイラル
 - 応募定員割れ

＝プログラム閉鎖（組織崩壊）の自然淘汰の可能性
- これから日本政府が60百万人の訪日外国人客に向かって邁進する際に、日本の観光ホスピタリティ経営研究学会は、世界の学術研究ルールから乖離し世界の誰もその研究成果を読まない（引用しない）日本人同士での日本語研究発表という自主鎖国体制の現状を大幅に変革し、「観光を輸出産業として育成し、訪日外国人客とその消費支出を増加させることで、現状疲弊した日本国内地域経済を活性化させて、地域住民の生活水準維持・向上を図る」という政府観光立国政策に経営人材育成面で貢献するための自己変革が必須。

「世界の潮流の変化・方向性に呼応しない日本観光学術界に迫り来る危機と変革への戦略試案」（拙文）
機関誌 観光文化 第221号特集 国際的な視野から見た観光研究

3-1: 今後の人材育成方向性（航路変更急務）



- Example: A Recruiter from a Restaurant Chain
 - 「観光業の歴史・社会学なんぞ教える暇があったら、財務諸表読解力や表計算能力、顧客クレーム対応、リスク管理、人事管理の基礎を教え込んでほしい。財務諸表読めなかったら昇進は無理でかわいそうなので、最初から採らない。」 Starr Restaurant Recruiter 02-2008
 - “Make sure to teach students how to read financial statements, build spread sheet modeling, deal with customer complaints, risk management and human resources management. Forget about history of tourism or sociology stuff. I will not hire any students who do not understand financial statements, because there will be no promotions.”

3-2: 今後の人材育成方向性（航路変更急務）

SVP of MGM (11/27/2018)

- 機会が与えられれば現在当社のラスベガス・マカオにあるよりも大規模の投資をするためにUS\$1Bのエクイティ確保している。客室数で言えば6千室規模で従業員雇用12000名。
 - 但し我々が本当に心配しているのは、**中間管理職3000名を現地で確保できるか。英語でホスピタリティ経営勉強している経営人材が他国ほど見当たらない。**(critically short of)
 - 故に、例え31名でも英語でホスピタリティ経営を専攻するプログラムの開始を祝福するためにわざわざラスベガスからここ（枚方市）に来た。
-
- **世界水準で勝負できる人材、今後必要となる人材のスペックはDMO・IR・MICE, インバウンド客奨励による地方創生・ホテル旅館経営、観光計画、ほぼ同じ最大公約数の人材。**（観光立国・文化立国経営人材も同じ）。
 - 産業界から人材スペック要請があるのに、日本の大学はその育成を拒み続けるのか？
⇒IRやMICEの想定経済効果が日本人中間管理職人材不足により未達状況に。



3-3. 世界で経営職階目指すに必須の知識

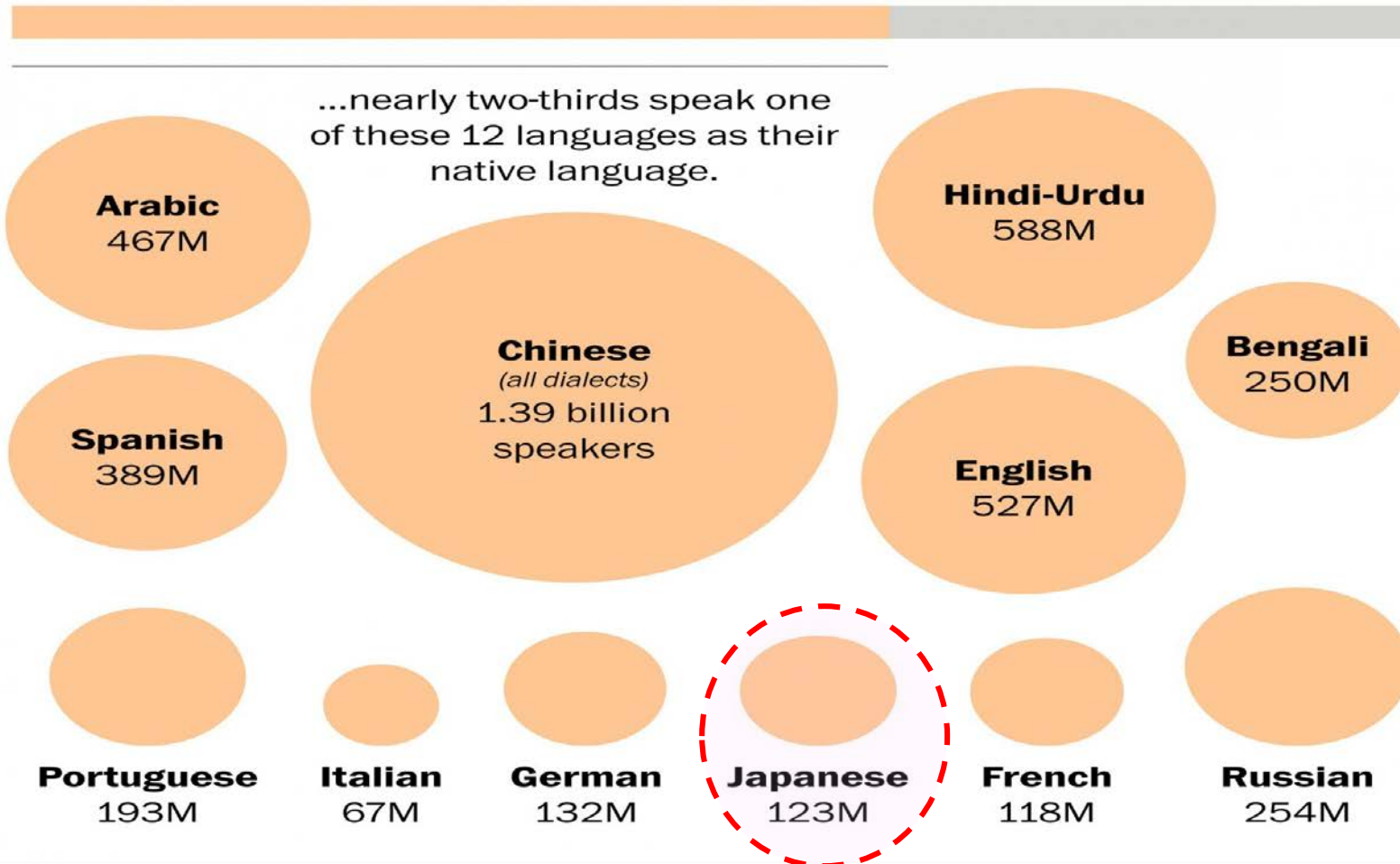
- 管理会計 Managerial Accounting
- 財務(ファイナンス) finance
- マーケティング Marketing
- 人事管理、組織行動、異文化経営 HR, OB, CCM
- リーダーシップ論 Leadership
- 顧客サービス経営 (「おもてなし」はこの一部) Guest service Management
- 料飲管理 FB management
- その他(不動産、タイムシェア、クルーズ、MICE、イベント経営他。
。イールドマネージメント等特殊知識) Other applied fields

MBAの枠組みに類似。観光学とは乖離した学術分野

経営：限られた組織内資源を最も効果の高い機会（分野・業務）に集中配分（& 同時に効果の低い分野から撤退）の判断を常に行うこと

4-1. 外的経営環境：世界の現実と日本

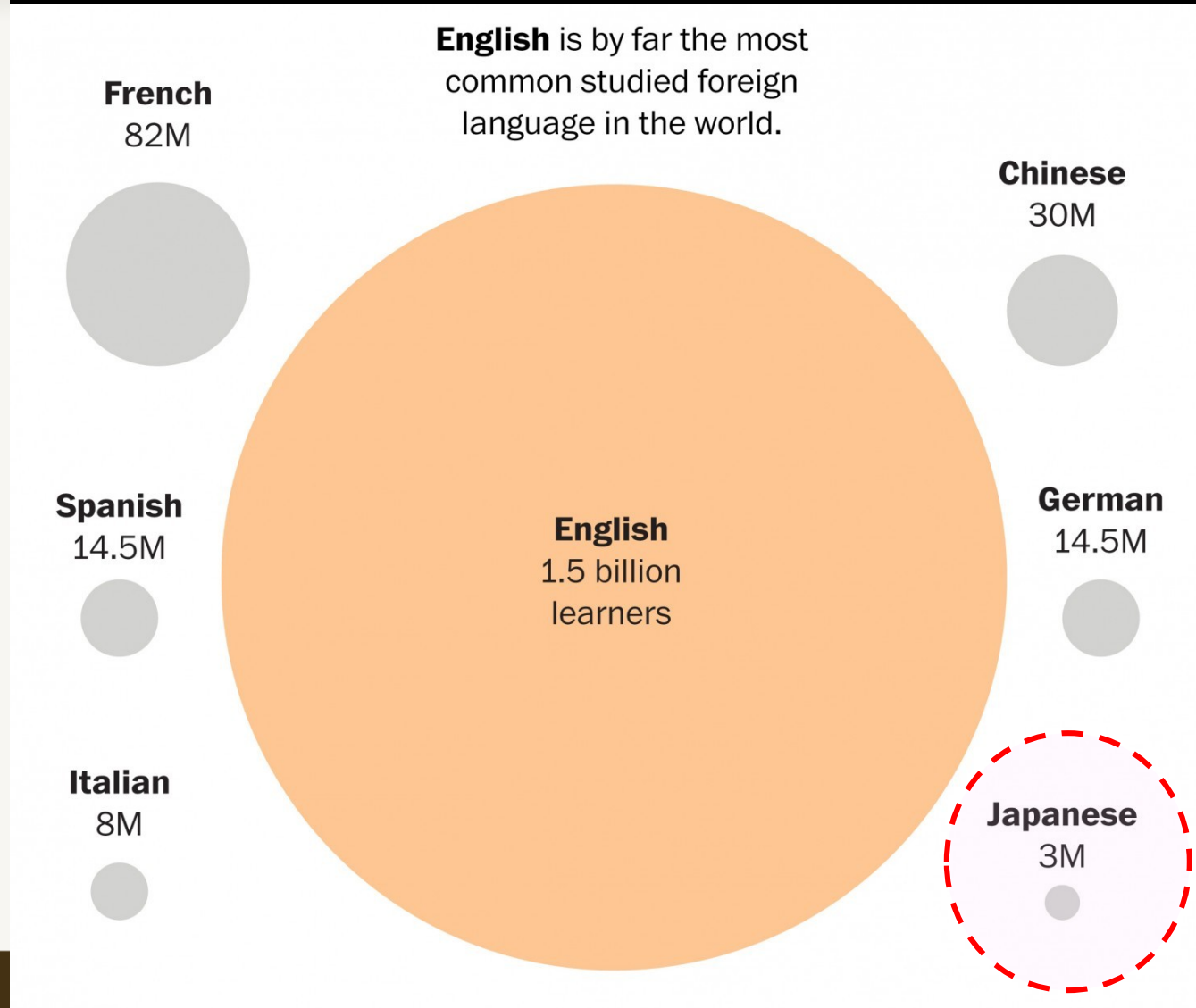
Of the **7.2 billion people** on Earth...



Sources: Ulrich Ammon, University of Düsseldorf, Population Reference Bureau
Note: Totals for languages include bilingual speakers.
THE WASHINGTON POST

世界主要言語の母国語人口

4-2. 外的経営環境：世界の現実と日本



(123+3)/ 7,400 = ?
日本語は世界の1.7%しか通じない。
世界共通言語は圧倒的に英語。

- 英語が母国語の人は英語を話す人全体（20億人）の1/4だけ、英語を話す残り3/4は英語にアクセントがある人達
- インバウンド客誘致は世界の98.7%に向けての英語でのビジネスが基本。
- 日本版DMOの議論においては、インバウンド業務は日本語での業務は不可という最も重要な基本ビジネスモデル理解と議論を避けている。

4-3.

22 УЗ		АСК «ЭКСПРЕС» АСУ «ЭКСПРЕСС»		ПРОЇЗНИЙ ДОКУМЕНТ ПРОЕЗДНОЙ ДОКУМЕНТ		ДЕ № 233345						
ПОЇЗД ПОЕЗД		ВІДПРАВЛЕННЯ ОТПРАВЛЕНИЕ				ВАГОН ВАГОН		ЦІНА, грн. ЦЕНА, грн.		КІЛЬКІСТЬ ОСІБ КОЛИЧЕСТВО ЧЕЛОВЕК	ВИД ДОКУМЕНТА ВИД ДОКУМЕНТА	
№	ШИФР ШИФР	ЧИСЛО число	МІСЯЦЬ месяц	ГОДИНИ годы	ХВІЛ. мин.	№	ТИП тип	КВИТОК билет	ПЛАЦКАРТА плацкарта			
102	ША	05.01	18.48	04	K	00071.22	00111.92	01	ПОВНИЙ			
ХЕРСОН-КИЇВ ПАС (2208530-2200001) ФІРМ НШ Б												
МІСЦЯ 024 ЧПЗ П-З												
ДЕ 233345 6Я1 Н1 5100617 020115 0927 KK63Ш02 /22-7122Н/Н												
КАМЕБЕЛЬ АЛЕКСАНДР ІПН: 010713115014												
Г-261.65ГРН=ТАР.183.14+СП.22.50+КЗБ.12.08+ПДВ.43.54+СТР.0.39												
В Т.Ч.БІЛ-27.00 (З ПДВ)												
ПРИБУТТЯ П.№101* 06.01 В 07.08												
СТР.ВІД Н/В 6000Н.М.ТДВ СТ"ДОМІНАНТА"												

新幹線指定券 (グリーン)

京都 → 名古屋

6月14日 (9:58発) (10:34着) C06

ひかり 462号 全席禁煙 9号車 7番D席

¥***

30.-6.12京都駅F2 (4-タ) 40200-07

What is this? Ticket? What time?
なにこれ? 切符? 何時に発車?
From where to where?
何処から何処行き?
Which car, which seat?
何号車、座席番号は?



ity Manager
y of Central

4-4: 国家戦略を支える人材育成が急務： ＝「変革を先取りする大学・人材には大きな機会あり」



- There will be no doubt about shortage of labor force in Japan
- You cannot expect all foreigners (98.3% of people in the world) to speak Japanese (労働力不足&日本語は世界の1.7%のみ)
- Japan will need not only those foreign labor forces but also many younger generation of their own who can understand, communicate in English with, lead and manage diversified labor force in Japan. (If you can do this, you will get paid higher salary)
 - － 多様性に対応出来て、英語で業務処理出来る、ホスピタリティ経営基礎知識を持つ管理職人材養成が急務。

Panelist パネリスト



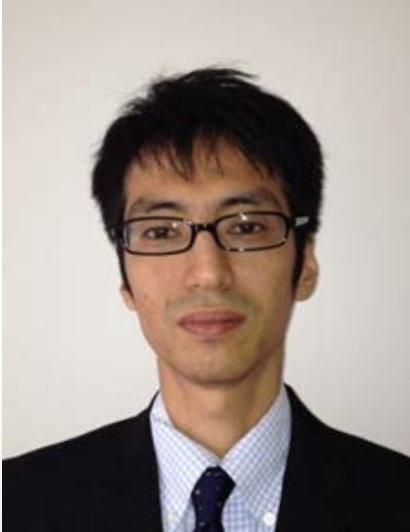
Mr. Makoto Nakagawa, Secretary General,
Integrated Resort Promotion Office, Government
of Japan

I R 推進本部事務局
事務局長 中川 真氏

Since July 2014, he has been leading his Government's agenda to set up Integrated Resorts in Japan and his Government's efforts to strengthen responsible gambling measures. Originally, Mr. Nakagawa joined the Ministry of Finance in 1983 and has years of working experience at international institutions, including International Monetary Fund (IMF), the World Bank and Organization for Economic Cooperation and Development (OECD). 2014年7月より日本政府において、日本における統合型リゾート（IR）の導入やギャンブル等依存症対策推進について主導的役割を果たす。1983年大蔵省入省、IMF・世界銀行・OCEDなど国際機関での勤務経験も豊富。



Panelist パネリスト



Mr. Yoshitaka Oochi, Director, Higher Education Div, MEXT

文部科学省高等教育局専門教育課長
黄地 吉隆氏

Joined the Ministry of Education, Science, Sports and Culture in 1997, after serving for the Office for University Reform, University Division, Higher Education Bureau, the Policy Planning and Coordination Division, Lifelong Learning Policy Bureau, and the Office for International Planning and Coordination Elementary and Secondary Education Planning Division, Elementary and Secondary Education Bureau, he became the Secretary to the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology in 2017 and Director, Technical Education Division, Higher Education Bureau, MEXT in 2019. **1997年文部省入省後、2001年高等教育局大学課大学改革推進室、2009年生涯学習政策局政策課専門調査官、2016年初等中等教育局国際企画調整室長、2017年大臣秘書官等を経て、2019年7月より現職。**



U.S.
COMMERCIAL
SERVICE
United States of America
Department of Commerce

Panelist パネリスト



Mr. Hiroshi Mizohata, President Osaka
Convention and Tourism Bureau

公益財団法人大阪観光局 理事長
溝 畑 宏氏

1985 Graduated from Tokyo University, Faculty of Law and joined Ministry of Home Affairs in 1985. Served as Director, Planning & Cultural Promotion, Oita Prefectural Government, President, Oita Football Club Co., Ltd. And the Commissioner, Japan Tourism Agency(～ March 2012). He became the Special Advisor to the Cabinet, Special Advisor to Osaka Prefectural Government, Special Advisor to Kyoto Prefectural Government in 2012. Since 2015, he serves as President, Osaka Convention & Tourism Bureau. **1960年京都府生。1985年東京大学法学部卒業、自治省入省。2002年大分県企画文化部長。2004年（株）大分フットボールクラブ代表取締役。2008年Jリーグナビスコ杯優勝。2010年国土交通省観光庁長官。2012年内閣官房参与、大阪府特別顧問、京都府参与。2015年大阪観光局理事長（大阪観光局長）。大阪府市都市魅力戦略推進会議会長。2017年大阪府・大阪市IR推進会議座長。大阪・関西スポーツツーリズム&MICE推進協議会 会長。**



**U.S.
COMMERCIAL
SERVICE**
United States of America
Department of Commerce

大阪観光局・取組みの方向性

大阪観光局のミッション
(29年11月DMO法人登録)

大阪観光推進のプラットフォームとして、大阪への経済効果を最大化する

《数を増やす》

世界の中で大阪が目的地として
選ばれる取り組みを行う

《質を上げる》

着地後消費最大化を目指し、大阪の
戦略的な観光地域づくりを促進する

《波及させる》

観光産業をリードする存在として、
大阪への経済効果を持続・波及させる








DMO事業展開に当たっての3つのコンセプト

24時間観光都市
(Anytime)

関西・西日本観光における
ハブ(Anywhere)

多様性あふれる街
(Anybody)

大阪の都市魅力に資する大規模プロジェクト等

区 分	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)	2024年 (令和6年)	2025年 (令和7年)	2026年 (令和8年)	
大規模 イベント等 【想定含む】		  	 							
施設関係 【想定含む】		J Rおおさか 東線開通 阪神高速 大和川線開通	USJ施設 オープン	中之島新美術館 オープン		北大阪急行 延伸開通 中之島未来医療 国際拠点オープン	IRオープン (想定) うめきた2期 まちづくり			
関空関係	関西3空港 運営一体化									

1

万博やIRを見据え、
大阪観光局は、

①日本の観光の
「ショーケース」
となる

②日本の観光の
「トップランナー」
となる

③成長戦略の
「起爆剤」
となる

④高付加価値
経済MICE
戦略都市

Panelist パネリスト



Mr. Yoshitaka Toi, Representative Director,
Kansai Tourism Bureau

一般財団法人関西観光本部 専務理事
東井 芳隆氏

Before he joined the current organization in June 2019, he was a senior executive director of NITORI holdings. He has a long experience in Ministry of Transport Japan, before he joined the company. He joined Ministry of Transport in 1983. He had served to Ministry of Transport of Japan for 35years before he retired the government. Main experiences are;

- **Director General for Crisis management and Transport Safety Policy**
- **Deputy Secretary of Meteorological Agency**
- **Assistant Vice Minister for International Affairs**



Roundtable2 ラウンドテーブル2

Theme : ホスピタリティ企業が面する人材に関する課題と対策への提言

モデレーター:

駐大阪・神戸米国総領事館 首席商務領事 ジェイ・ビッグス氏

パネリスト:

- ユー・エス・ジェイ セールス&パートナーシップ本部長 村山卓氏
- JWマリオット奈良 総支配人 クリス・クラーク氏
- 日本アムウェイ 政府・渉外本部ディレクター マーク・デビッドソン氏
- アコー・ジャパン 副社長 エリック・ディグナジオ氏

ACCI

Moderator モデレーター



Mr. Jay Biggs Principal Commercial Officer,
U.S. Consulate Osaka-Kobe

駐大阪・神戸米国総領事館 首席商務領事
ジェイ・ビッグス氏

アリゾナ州のビジネススクールを卒業後、The Japan Exchange and Teaching Programme (JET)プログラムに参加し、群馬県前橋市近郊で英語教師として勤務。アメリカン大学大学院に在籍中、京都の立命館大学で学び、日本貿易振興機構大阪本部にインターンとして勤める。アメリカン大学大学院修了後、米国商務省に入省。日本担当オフィス及び中国担当オフィスにて勤務。マンスフィールド・フェローとして東京で1年間滞在の後、中国広州の米国総領事館、北京のアメリカ大使館商務部勤務。2018年8月より現職。



Panelist パネリスト



Mr. Chris Clark, General Manager, JW Marriott Nara

JWマリオット奈良 総支配人
クリス・クラーク氏

ACCU

Panelist パネリスト



Mr. Mark Davidson, Director Government & External Affairs Amway Japan

日本アムウェイ合同会社 政府・渉外本部
ディレクター マーク・デビッドソン氏

Co-chair, ACCJ Education Committee and/or Member of the Board of Overseers, Temple University Japan.

日本アムウェイの政府・渉外本部ディレクターであるデビッドソン氏は、在日米国商工会議所の教育委員会の共同委員長、テンプル大学日本校の理事会のレギュラーメンバーも務める

ACCJ

U.S. Department of Commerce | International Trade Administration



Panelist パネリスト



Mr. Eric Dignazio, Vice President
Accor Japan

アコー・ジャパン

代表取締役 エリック・ディグネジオ氏

米国ノースカロライナ州生まれ。ミシガン州立大学の経営学部 および外国語学部にて学士課程でのダブルディグリーを取得。在学中、国際交流研修生として来日し、日本語および日本の経営学について学ぶ。大学卒業後、再来日を決意。2005年にPlan・Do・Seeに入社、海外事業部マネージャーとして勤務。翌年Plan・Do・See初の海外出店となるニューヨーク1号店を開業させる。その後、08年にセールス&マーケティングエリアディレクターとしてインターコンチネンタル・ホテル・グループ（IHG）に勤務。セールス、マーケティングに加え、MICEビジネスに携わる。2010年よりアコーに入社。営業本部長を経て、13年3月より代表取締役に就任。

ACCU

Panelist パネリスト



Mr. Tak Murayama, Senior Vice President,
Sales & Partnership Division, External Affairs
USJ LCC

合同会社ユー・エス・ジェイ セールス&
パートナーシップ本部長エクスターナル・ア
フェアーズ部長兼務 村山 卓氏

米国でMBA取得後、新卒で入社

2000

Completed MBA and joined USJ

人事部へ異動

2002

Human Recourses Department

マーケティング&セールス部へ異動

2009

Marketing & Sales Department

現職

2018

Current post



Remarks ご挨拶

Mr. Takayuki Hirose
Chair, Cultural Tourism Project Management
Committee

文化観光プロジェクトマネジメント委員会
代表 廣瀬 崇之氏



Roundtable IIIA ラウンドテーブルIIIA

Topic:参加の米国の大学の紹介

モデレーター：関西外国語大学学部長・ACCJ関西支部長 ステファン・ザーカー氏
パネリスト：

- セントラルフロリダ大学 Associate Dean アラン・フィオール氏
- カレッジ・オブ・デザート President/Superintendent ジョエル・キナモン氏
- ミシガン州立大学 Director Broad College of Business

カール・ボルチグレヴィンク氏

- ネバダ大学ラスベガス校 Executive Associate Dean マーラ・スッタフォード氏
- ウィスコンシン大学スタウト校 Professor & Chair エリック・ブレイ氏

The ACCJ logo is a red square with the white text "ACCJ" inside.

Moderator モデレーター



Dr. Stephen A. Zurcher, Kansai GaiDai/ACCJ

関西外国語大学学部長・ACCJ関西支部長
ステファン・ザーカー氏



Panelist パネリスト



Alan Fyall, Associate Dean of the Univ. of Central Florida

セントラルフロリダ大学

Associate Dean アラン・フィオール氏

Dr. Alan Fyall is the Associate Dean of Academic Affairs, the Visit Orlando Endowed Chair, the Interim Chair of the Tourism, Events and Attractions Department and Graduate Programs' Director at the Rosen College of Hospitality Management, University of Central Florida, and is a member of UCF's National Center for Integrated Coastal Research. Dr. Fyall is also Interim Chair for the Tourism, Events and Attractions Department. He has published widely in the areas of tourism and destination marketing and management including 22 books.



Introduction to the UCF Rosen College of Hospitality Management



*Presented by
Dr. Alan Fyall, Associate Dean*



**Rosen College of
Hospitality Management**

UNIVERSITY OF CENTRAL FLORIDA

Our Mission

To Educate and **Develop Future Generations**
of Global Hospitality, Tourism, Event and Entertainment
Leaders

through **Comprehensive and Innovative** Academic
Programs, **Knowledge Creation** through Research and
Dynamic Worldwide
Industry and Community Partnerships





Rosen College Facts

- **73** Faculty Members
 - **17** Countries
- **5** Bachelor's Degree Programs
- **2** Masters Degree Programs
 - **1** PH.D. Program
 - **3,500** students

Curriculum Structure:

Distinctive Impact

Comprehensive

Integrated

Hedonic

Utilitarian

HOSPITALITY EDUCATION AND RESEARCH

Entertainment
Mgmt. (B.S.)

Hospitality & Tourism Mgmt. (M.S.
Online)

Hospitality Mgmt.
(B.S. Online)

Foodservice & Restaurant Mgmt.
(B.S.)

Event Mgmt. (B.S.)

Senior Living Mgmt. (B.S.)

Sport Event Experience Mgmt.
(Certificate)

Theme Park & Attraction Mgmt.
(Track)

Institute for Hospitality in
Healthcare (CTCA)

Event Leadership
(M.S. Online)

Destination Marketing & Mgmt.
(Grad. Cert.)

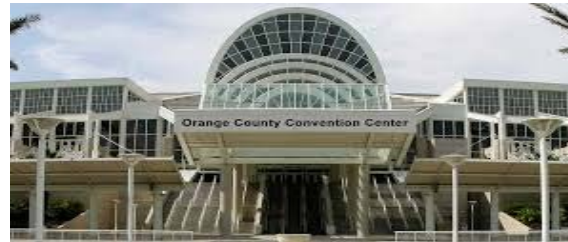
Travel Technology & Analytics
(M.S.)

Professional Tennis Mgmt. (Track)

Unique

Innovative

INDUSTRY PARTNERSHIPS



Rosen College Research Journals





Panelist パネリスト



Mr. Joel Kinnamon, President/Superintendent
College of the Desert

カレッジ・オブ・デザート
President/Superintendent

ジョエル・キナモン氏

Dr. Joel L. Kinnamon assumed the role of Superintendent/President at College of the Desert in July 2012. Prior to joining College of the Desert, he was a professor of Business Management and held various administrative positions, including the Dean of Business, at Oklahoma City College. Kinnamon also worked as Provost at Tulsa Community College. In 2002 Kinnamon moved to the San Francisco Bay Area where he served as Vice

Chancellor and subsequently Chancellor for Chabot-Las Positas Community College District.

He has managed tremendous growth during his time at College of the Desert. In May 2019, the College celebrated the largest graduating class in its 60-year history for the fifth straight year.

The logo for the Association to Advance Collegiate Schools of Business International (AACSB), featuring the letters "ACCU" in white on a red background.



COLLEGE
of the DESERT



Established 1958, one of the fastest growing of 114 California community colleges

Overview

- Vocational, technical, and liberal arts programming
- Bachelors degree pathways
- \$300 million annual impact on local area
- Top 1% two-year college in the U.S. with Aspen recognition for community college excellence
- Seven recent national student success awards



Desert Defined

Diverse and Growing Population

- 500,000 fulltime & 100,000 seasonal residents
- 1/4 of population under 20 years old
- Largest segment (1/3) over 55 years old

Southern California's Desert Destination

- Under 2 hours from Los Angeles and San Diego
- 4,000 square mile region known as the Coachella Valley

Local Economic Snapshot

- 3% GDP growth forecast for next two years
- Key industry sectors: hospitality, education, and health services



Desert Redefined

\$5.5 billion Hospitality Industry Impact

- Over 15,000 jobs with expected growth of 13%
- 190 hotels, including 7 integrated resorts serving almost 14 million visitors
- Over 100 golf courses
- 1.4 million square feet of meeting and conference space
- Professional tennis and golf tournaments
- World-renowned film and musical festivals



College & Hospitality Industry Linkages

- Stakeholder Advisory Councils consisting of industry, community, and regional leaders
- 100% of Hospitality program students complete a minimum of 60 hours of mentored professional practical training
- Strategic business partnerships
 - Marriott
 - Ritz-Carlton
 - Hyatt
 - Integrated resorts (Agua Caliente, Morongo, Augustine, Fantasy Springs)
- Guaranteed university transfer admission including California State Universities (such as Cal Poly Pomona), University of California campuses, and private universities



College of the Desert's Future

- Regional Workforce Innovation Center located in Palm Springs
- \$578 million development bond
- Will include teaching hotel, restaurant, wellness center, and conference facility – all open to the public
- Partnered with and supported by hoteliers, convention and visitors bureau, regional tourism associations, cultural center, and local government entities
- Hospitality programming to be integrated with film, digital media, healthcare, culinary, architecture, and renewable energy academic programs





COLLEGE
of the
DESERT

Panelist パネリスト



Dr. Carl P. Borchgrevink, Director Broad
College of Business Michigan State University

ミシガン州立大学

Director, Broad College of Business

カール・ボルチグレヴィンク氏

Prior to his academic career, Dr. Carl P. Borchgrevink, accumulated 14 years of hospitality business experience. The positions he held included Chef, Restaurant Manager, and Food-service Manager. He has been at Michigan State University since 1989. He is the Director of The School of Hospitality Business and The John and Becky Duffey Faculty Fellow in Hospitality Business.

ACCU

Believing that hospitality students need a global perspective and should travel or study abroad, Dr. Carl P. Borchgrevink is highly involved in The School's study abroad and exchange programs.

U.S. Department of Commerce | International Trade Administration





Broad College of Business
MICHIGAN STATE UNIVERSITY

The School of Hospitality Business at Michigan State University

Carl P. Borchgrevink

WHO WILL MAKE
BUSINESS HAPPEN?
SPARTANS WILL.

Michigan State University



Michigan State University (MSU) is a public research university.

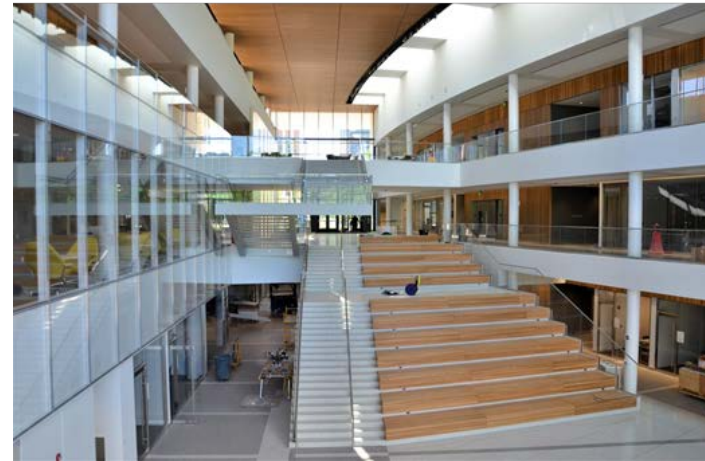
MSU was founded in 1855 and served as a model for other land-grant universities.



Broad College of Business
MICHIGAN STATE UNIVERSITY

The Eli Broad College of Business

- Mission:
 - We create and disseminate knowledge through collaborative relationships while developing transformational leaders who make business happen.
- Vision
 - To be a top-of-mind business school as reflected by the recognition of our brand, the reputation of our people, and the rankings of our programs.



The School of Hospitality Business

- Planning our 100th Anniversary!
 - We have been educating the leaders of hospitality and service businesses since 1927.
- Consistently ranked among the top hospitality programs in the world.
 - In 2019:



Broad College of Business
MICHIGAN STATE UNIVERSITY



Available Degrees/Foci

- Undergraduate (BA) in Hospitality Business
 - Management of
 - Lodging, Foodservices, Resorts, Revenues, Events, Private/Golf Clubs, Supply Chain, Contract Services, Casinos
 - Minor: Real Estate Investment Management
- Graduate (MS) (2021)
 - Foodservice and Event Management
 - Real Estate Investment Management
 - Revenue Management



How We Stay Relevant

- Industry led advisory boards
- Active and engaged alumni
 - Guest lecturers; Mentors
- Industry association membership
- Faculty with industry experience
- Continuous curriculum review
- Academic conference participation globally



Broad College of Business
MICHIGAN STATE UNIVERSITY

STR's SHARE Center crowns winners in Hong Kong

14 JUNE 2019 10:00 AM

A team from Michigan State University was named the winner of the STR Student Market Study Competition held last month at Hong Kong Polytechnic University.



Michigan State University's winning team of Kennedy White, Yanru Liang, Brandon Abbo and James Miller. (Photo: STR)

Hospitality Business Students

- Strong operational skills and work ethic
 - Internships (2*400 hours)
 - Course related practicum/clinical training
 - Many classes include learning-while doing
 - “Live clients”
 - Foodservice, events,
 - » E.g., Michigan Wine Competition
 - Extracurricular activities
 - 9 student clubs and 3 student events

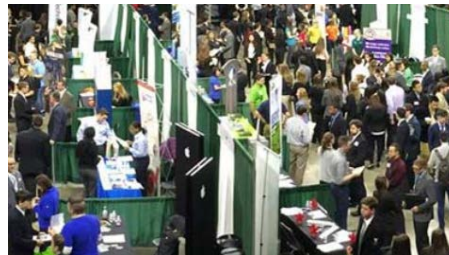


Over 100 student volunteers, faculty, and advisors contributed to Les Gourmets.



School Composition

- Average 600 students and 200 graduates per year
 - 23% of Broad College
 - 60% women
 - 20% international
- Student-Industry Resource Center
 - 94% placement
- Faculty
 - 11 Tenure system
 - 4 Endowed Chairs
 - 5 Instructors
 - 6 Adjunct
- Staff
 - 3 Academic staff
 - Advising, Career Services, Alumni Engagement
 - 2 Administrative staff





Broad College of Business
MICHIGAN STATE UNIVERSITY

Thank you!

WHO WILL MAKE
BUSINESS HAPPEN?
SPARTANS WILL.

Panelist パネリスト



Dr. Marla Royne Stafford
Executive Associate Dean Harrah College of
Hospitality, University of Nevada, Las Vegas

ネバダ大学ラスベガス校
Executive Associate Dean
マーラ・スッタフォード氏

Dr. Marla Royne Stafford is the William F. Harrah Distinguished Chair and Executive Associate Dean of Academic Affairs at the Harrah College of Hospitality at UNLV. She is past Interim Dean and Marketing & Supply Chain Department Chair at the Fogelman College of Business at the University of Memphis. She received her Ph.D. in marketing from the University of Georgia. Prior to joining academia, Dr. Stafford held positions with Florida

Tourist News, Philip Crosby Associates and Tupperware Home Parties.
She also has experience with a family owned travel business.

ACCU



UNLV | HARRAH COLLEGE OF HOSPITALITY



UNLV Hospitality

- Top Ranked Program
 - International recognition and strong reputation
- Location, Location, Location!
 - Situated blocks away from the world's greatest hospitality laboratory in the world
 - 2nd most popular convention destination in the US
 - Celebrity chef restaurants – Ramsey, Puck, Lagasse, Fieri
 - Unmatched access to internships & mentorship opportunities
 - Hands-on experience while in school
- Industry-intensive Instruction from Leading Experts in the Field

UNLV Hospitality

We are dedicated to changing the lives of students by providing them with the theoretical and practical knowledge they need to become leaders in the hospitality industry.

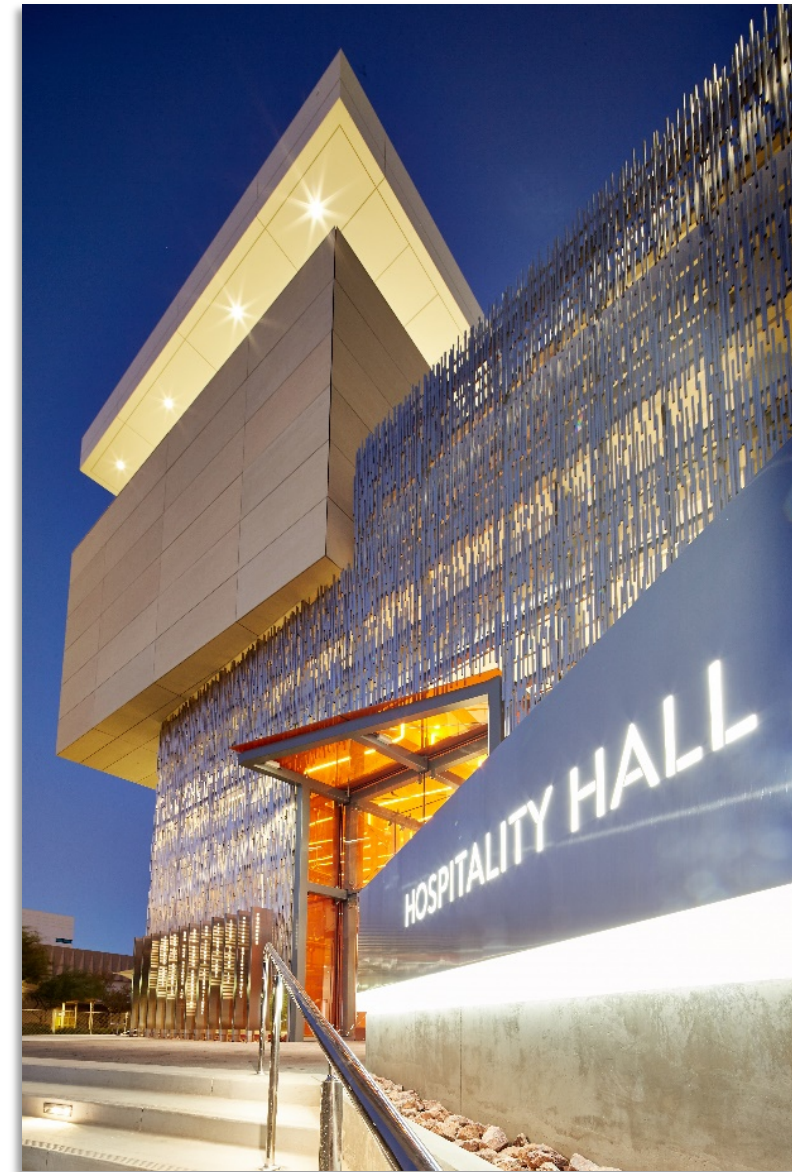


Our Vision at the Harrah Hospitality College:

- Our goal is to prepare our students to enter the industry and provide the tools they need to reach the executive level, which can change lives
- Our ability to achieve our goals is only possible through a dynamic integration with the hospitality industry
- Serve the most diverse campus in the country; many are first generation college students and international students.

Hospitality Hall

- 93,500 square feet of contemporary, experiential learning space
- A state-of-the-art executive teaching kitchen
- Convertible, interactive classrooms
- A Center for Professional Golf Management
- International Student Success Center
- A student-run café
- Common spaces for students and educators to collaborate
- Special event spaces with views of the famous Las Vegas Strip



Harrah College by the Numbers

- 2,200+ current students
- 23% of students are international
- Over 17,000 alumni, 50% outside Las Vegas
- Over 600 student internships placements each year
- Over 100 hospitality organizations visit and recruit our students each year
- 12 patent applications for intellectual property created in the Hospitality Innovation Lab

Today

- While other hospitality schools are merging with business schools, we are doubling down on hospitality and remain focused on providing theory driven practice to our students.
- We have closely reviewed our current programs and partnered with industry leaders to identify the skills and competencies our graduates need to be successful.

Bachelor of Science in Hospitality Management

- Broad educational approach to a career in the hospitality industry
 - Prepares students with both the management theories and operational competencies necessary to enter any segment of the industry
 - New curriculum contains 30 credits of elective courses to allow for customization/concentrations
 - Experiential learning requirements

Bachelor of Science Hospitality Management

- First Year Seminar (3 hours)
- College Core (46 hours)
- Culminating Experience in Area of Choice (6 hours)
- Elective or Concentration Courses (30 hours)

Current Concentrations

- Gaming
- Restaurant Management
- Meeting and Events Management
- Professional Golf Management (additional admission requirements)



Experiential Learning

- Work Experience
 - Students complete 1,000 hours of work experience in the industry (equivalent to six months of full-time work)
- Culminating Experience
 - Integrates knowledge and theory learned in the classroom with practical application and skills development in a professional setting (e.g., internships, industry projects, specialized classes)

Student Support Highlights



- Bob Boughner Career Center – career counseling, job and internship assistance, resume building, mock interviewing, employer relations
- Mentor Program – 180+ student pairings with hospitality executives
- Hospitality career events each semester with 100+ companies
- Hospitality Student Advising Center: focus on student retention
- International student success center
- College-based scholarships for hospitality students
- Annual funding for student development opportunities

Graduate Programs

- The Online Executive Master of Hospitality Administration
- The Traditional Master of Science in Hotel Administration
- Dual Degrees in partnership with the UNLV Lee Business School:
 - Master of Science in Hospitality Administration/Master of Science in Management Information Systems
 - Master of Science in Hospitality Administration/Master of Business Administration
- Ph.D. in Hospitality Administration

More info on each program available online:

unlv.edu/hospitality/graduate-studies

Active Research Faculty Projects

- *Boardroom Diversity, Financial Performance and Idiosyncratic Risk in the Tourism Industry: The Role of Institutional Ownership*
- *Book Now, Pay Later: An Investigation of Delays in Payments, Temporal Distance and Inter Temporal Choice*
- *Eco-efficiency Assessment of U.S Tourism Industry*
- *Effects of CSR, Organizational Justice, and Organization-based Self-esteem on Organizational Commitment*
- *Employee and Customer Motivation in Co-Creation and Co-Destruction of Value*

Who graduated with a UNLV Hospitality Degree?

Just to name a few....

- President of MGM Resorts International
- President of the Cosmopolitan of Las Vegas
- Celebrity Chef and Food Network Star
- CEO of Paragon Gaming
- President of New York New York Las Vegas
- Founder of the Palms Casino Resort
- Chief Development Officer, Marriott
- President of Luxor Hotel and Casino
- Chief Development Officer of Focus Brands



Shawna Elliott '11, '13 ms
Director of Golf Instruction
Rhodes Ranch

Sandy Kim '11
Community Manager
WeWork, New York City

Lovell Walker '09
Executive Director of
Interactive Gaming
Development
MGM Resorts International

Andrew Insigne '11
Director of Event Marketing
TAO Group

Megan Hutton '11, '16 MHA
General Manager
Pronto by Giada at Caesars Palace






"Think of the amazing things that have been accomplished in this city. And UNLV is a founding staple. I feel blessed. I mean, my story is pretty incredible. UNLV got me here."


- Bill Hornbuckle '84


"I chose UNLV because it is known for its great hospitality program. ... If I plan to follow in my dad's footsteps, I might as well attend the same college he did where there are endless opportunities in the hospitality industry."

-Hunter Fieri
Hospitality Management major

 Follow Us

 Facebook

 LinkedIn

 Twitter

@unlvhospitality



"UNLV taught me to embrace diversity and people from all different backgrounds. As I grew in my career, I really learned to appreciate people and see them in a different light because of the Hotel College."

- Martha Morales '09

Questions?

Panelist パネリスト



Eric T. Brey, Professor & Chair
University of Wisconsin-Stout

ウィスコンシン大学ストウト校
Professor & Chair エリック・ブレイ氏

Eric T. Brey, Ph.D., is a Professor in the School of Hospitality Leadership at the University of Wisconsin-Stout where his work focuses on the implementation of customer-centric strategy and service design influences on organizational success. He has been recognized for innovation as an AT&T Technology Fellow and an extraordinary marketing mind by HSMIA while being quoted in international media outlets including Forbes, Business Week, China Post, USA Today, New York Post, Washington Post, and CBS News. He has received numerous scientific awards for his research and has been published in various top-tier journals including the Annals of Tourism Research, Cornell Hospitality Quarterly, Tourism Management, and Journal of Travel Research. As a teacher-scholar passionate about engaging with industry, he's had the privilege of working with the American Resort Development Association, British Virgin Islands Chamber of Commerce, Caribbean Hotel and Tourism Association, Dalhoff Thomas Design Studio, Destination Marketing Association International, Empresas Bern, Intercontinental Hotels Group, Institute of Real Estate Management, Methodist Hospitals, RVC Outdoor Destinations, United States Golf Association, and the Women's Foodservice Forum amongst others. Eric received his Ph.D. from Purdue University and currently serves as an advisor to the Chief Marketing Officer Council.

ACCU

A photograph of the University of Wisconsin-Stout campus. The main building is a large, multi-story red brick structure with a prominent clock tower. The clock tower has two visible clock faces. To the right of the main building, there is a large, leafy green tree. In the foreground, there is a green lawn, a sidewalk, and a black lamppost with two white globe lights. A small black sign on the lawn reads "Bowman Hall". A person is riding a bicycle on the sidewalk. The sky is blue with some white clouds.

UNIVERSITY OF WISCONSIN - STOUT

CAREER-FOCUSED | APPLIED LEARNING | COLLABORATION

UW-STOUT'S POLYTECHNIC DESIGNATION

POLYTECHNIC SCHOOLS ARE CAREER-FOCUSED UNDERGRADUATE AND GRADUATE UNIVERSITIES THAT COMBINE APPLIED LEARNING WITH A LIBERAL ARTS EDUCATION.



CAREER FOCUS

OFFERING A COMPREHENSIVE CURRICULUM THAT PREPARES GRADUATES FOR PROFESSIONAL CAREERS.



APPLIED LEARNING

BLENDING THEORY WITH PRACTICE TO PRODUCE INNOVATIVE SOLUTIONS TO REAL-WORLD PROBLEMS.



COLLABORATION

WORKING CLOSELY WITH BUSINESS, INDUSTRY AND OTHER EDUCATIONAL INSTITUTIONS TO BENEFIT STUDENTS AND GROW THE ECONOMY.

SCHOOL AT A GLANCE

School of Hospitality Leadership

Ranked #8
INTERNATIONALLY



- Value-based cost structure
 - Extensive new program experience
 - Designated focus program at UW-Stout
 - Comprehensive education
 - Over **400** students
 - **1:20** faculty-to-student ratio
 - Accredited by ACPHA
 - Domestic internship lodging provided
-



PROVIDING EXTRAORDINARY VALUE

OUR TUITION AND FEES INCLUDE:

- Internship and career support
- Laptop/software
- Textbooks
- Wireless Internet access
- Student activities
- Health services
- Technology
- Recreation complex
- Bus service

G5 Series
l. Forgiveness. Fun.

COLLABORATION OPPORTUNITIES

- Program partnerships
- Articulation agreements (dual degree, degree completion, etc.)
- Visiting scholars/faculty exchanges
- Direct enroll agreements
- Exchange agreements
- Short-term programs
- International professional development



INDUSTRY CONNECTIONS

- Experienced faculty members and industry leaders infuse expertise into curriculum
- An applied experience or internship requirement
- Laddered work experience aligned with learning opportunities

99%

employment rate for UW-Stout graduates

HYATT

IDEAS™
A SAS COMPANY

Marriott®



THE
LITTLE
NELL



HILTON
WORLDWIDE

Augusta



Roundtable III-B ラウンドテーブルIII-B

Topic : Q&A具体例を挙げながらアメリカのホスピタリティマネジメントのプログラムがどのように日本のグローバル人材育成にお役立ていただけるか

モデレーター: セントラルフロリダ大学 准教授 原 忠之氏
パネリスト:

- セントラルフロリダ大学 Associate Dean アラン・フィオール氏
- カレッジ・オブ・デザート President/Superintendent ジョエル・キナモン氏
- ミシガン州立大学 Director Broad College of Business カール・ボルチグレヴィンク氏
- ネバダ大学ラスベガス校 Executive Associate Dean マーラ・スッタフォード氏
- ウィスコンシン大学スタウト校 Professor & Chair エリック・ブレイ氏

Closing Remarks 閉会のご挨拶

Mr. Tsuyoshi Enomoto, Director, Agency for
Cultural Affairs

文化庁企画調整課長 榎本 剛氏

Mr Tsuyoshi Enomoto started his career in Ministry of Education in 1991, and after one-year experience in DEETYA (Australia's education department) in 1997-98, he worked for the Japanese Embassy in UK as an education attaché (1999-2002). He served as director in the Cabinet Office for closer links between culture and economics before taking up his current position in 2018

H3 文部省入省。 H26初等中等教育局国際教育課長、H27振興局参事官（情報担当）、H29官房付（併）内閣参事官（内閣官房副長官補付）文化経済戦略特別チーム参事官を経て、H30.10より現職

ACCU

Closing Remarks 閉会のご挨拶

Mr. Jay Biggs, Principal Commercial Officer,
U.S. Consulate Osaka-Kobe

駐大阪・神戸米国総領事館 首席商務領事
ジェイ・ビッグス氏

The ACCU logo is a red square with the white text "ACCU" inside.